

アラビア半島の遊牧化

—サウジアラビア北西部、ワディ・グバイ遺跡群の第6～7次調査(2021)—

藤井 純夫 金沢大学古代文明・文化資源学研究センター特任教授
 上杉 彰紀 金沢大学古代文明・文化資源学研究センター特任准教授
 久米 正吾 金沢大学古代文明・文化資源学研究センター特任助教

Pastoral Nomadization in the Arabian Peninsula: The 6th and 7th Field Seasons (2021) at the Wadi Ghubayy Sites, Northern Hijaz

FUJII, Sumio Specially Appointed Professor, Center for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University
 UESUGI, Akinori Project Associate Professor, Center for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University
 KUME, Shogo Project Assistant Professor, Center for the Study of Ancient Civilizations and Cultural Resources, Kanazawa University

アラビア半島の遊牧化—サウジアラビア北西部、ワディ・グバイ遺跡群の第6～7次調査(2021)—

1. はじめに

2017年の3月に始まったワディ・グバイ(およびワディ・ムハラック)流域、銅石器時代～前期青銅器時代遊牧民遺跡の発掘調査は、長引くコロナ禍のため、2019年12月の第5次調査を最後にしばらく中断していた(藤井他 2018, 2020; 藤井・足立 2019; Fujii 2016; Fujii *et al.* in press a, b)。2021年の後半になってようやく再開、第6次調査(9月11日～10月4日)ではワディ・グバイ下流域の追加分布調査を、続く第7次調査(11月18日～12月29日)では中流域ダム遺跡群などの発掘調査を、それぞれ実施した(図1)。その結果、これまで取り組んできたワディ・グバイ支流域の葬祭遺跡群とはまったく異質の、先史遊牧民の実生活に関わる遺跡群が存在することが判明した。

2. ダム遺跡群

実生活の痕跡の一つは、ダムである。ワディ・グバイ中流域の南北両岸に並ぶ WGB-9、-10、-22、-23、-24、-25、-26、-27 の8遺跡で、計12基の小型石造ダムを確認した(図2、3)。ダムはいずれも、左右・後方の3方向を砂岩の岩壁に囲まれ、ワディ側にのみ狭い開口部を持つ、Ω字形の砂質平坦地に立地しており、直線的または下流方向にやや湾曲するプランを持っていた(図4)。堤長は約20～50m、現存の堤高は最大約1m、冠水域の面積は1ha前後である。ダム壁の多くは大型の立石を交えた乱雑な石積みであったが、基底面の凹部(つまり、往時の小型ワディ面)に

捨石を入れてダム壁を水平に橋渡しするなどの工夫が見られた(図5)。2件のダムには、1mほどの深さを持つ石囲いの井戸も組み込まれていた(図6)。

これらのダムは、周囲の岩山から注ぐ流水をΩ字形平坦面の下端で堰き止めて冠水・含浸させ、その後の蒸散を利用して穀物を栽培するための貯留式灌漑用ダムとして用いられたのであろう。事実、ダムは、同じΩ字形の地形でも、平坦で砂質土壌の場合にのみ築かれていた。急斜面の場合、あるいは平坦であっても露出岩盤が地面を形成している場合は、ダムは築かれていなかった。これと同じ用途のダムは、ヨルダン南部のジャフル盆地で発見された新石器時代の移牧出先集落でも確認されている(Fujii 2013)。

問題は年代であるが、ダム出土の遺物は皆無で、C14年代もまだ測定中である。ただし、オーストリア隊による下流域水利施設のOSL測定年代値(紀元前3千年紀、前期青銅器時代)が中流域にも当てはまるとすれば、発掘した一連の小型ダムは、調査区南半の(円塔墓・プラットフォームから成る)葬祭遺跡群と同時代ということになるであろう。実生活空間と葬祭域との棲み分けである。

3. パンサー・トラップと岩絵

先史遊牧民の実生活を知るもう一つの手がかりとなったのは、ダム周辺に集中するパンサー・トラップ(panther trap)と岩刻画(petroglyph)である。水場(この場合、貯留式灌漑農耕用の小型ダム)に野生の動物や(家畜を連れた)先史遊牧民が集まってくるのは当然

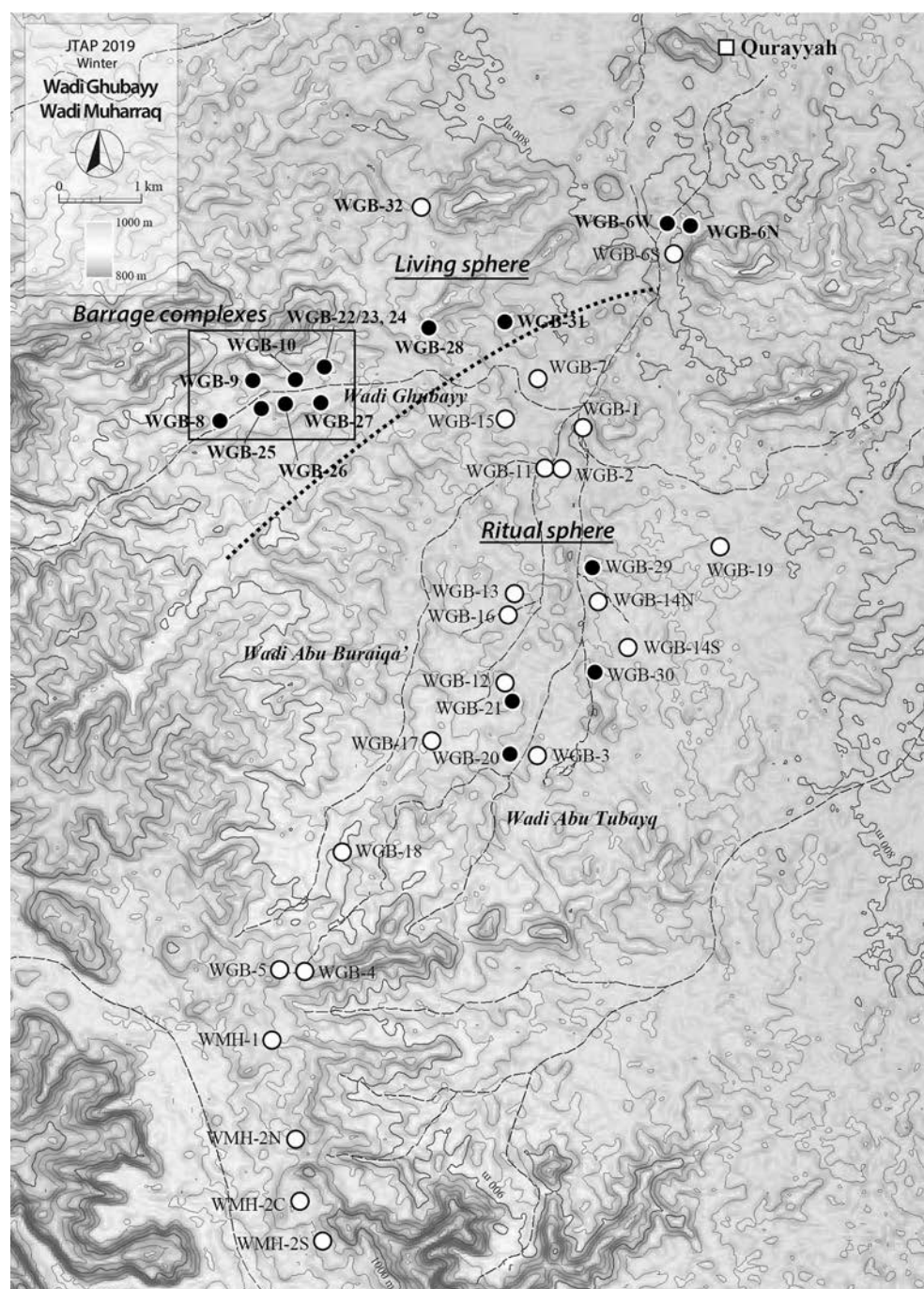


図1 ワディ・グバイ遺跡群：黒丸が第6次・7次調査の対象遺跡

であり、三者がセットになって複合体を形成していることも肯ける。ただし細かな立地は互いに異なっており、ダムは先述のとおりワディ・グバイの南北両岸に開口するΩ状平坦面に、パンサー・トラップはその後背台地に、岩刻画はダム壁周囲の露出岩盤または大型の転石に、それぞれ集中していた。

パンサー・トラップは、細長いトンネルを乱雑な積み石で覆った小型の遺構で、トンネルの片側を石で塞いでいる。これまでの発掘例5件に加えて、新たに13件を追加登録した。その多くはトンネルの間口幅

約15 cm、長さ1 m前後の小型遺構であり、おそらくは(狩猟用に飼ひ慣らす)チータの幼獣を生け捕りするための罠であったと考えられる(図7)。

一方の岩刻画は、数百点が確認された(図8)。それらは、刻面・刻線の風化度、手法の違い(線刻か面刻か)、切り合い関係、モチーフの内容(例えば、ウシか、ウマか、ラクダか)などを基に、少なくとも3時期、おそらくは4時期に分類できそうであるが、詳細は検討中である。モチーフとして最も多いのは、(しばしば飼ひ慣らしたチータを伴う)アイベックス狼の光景

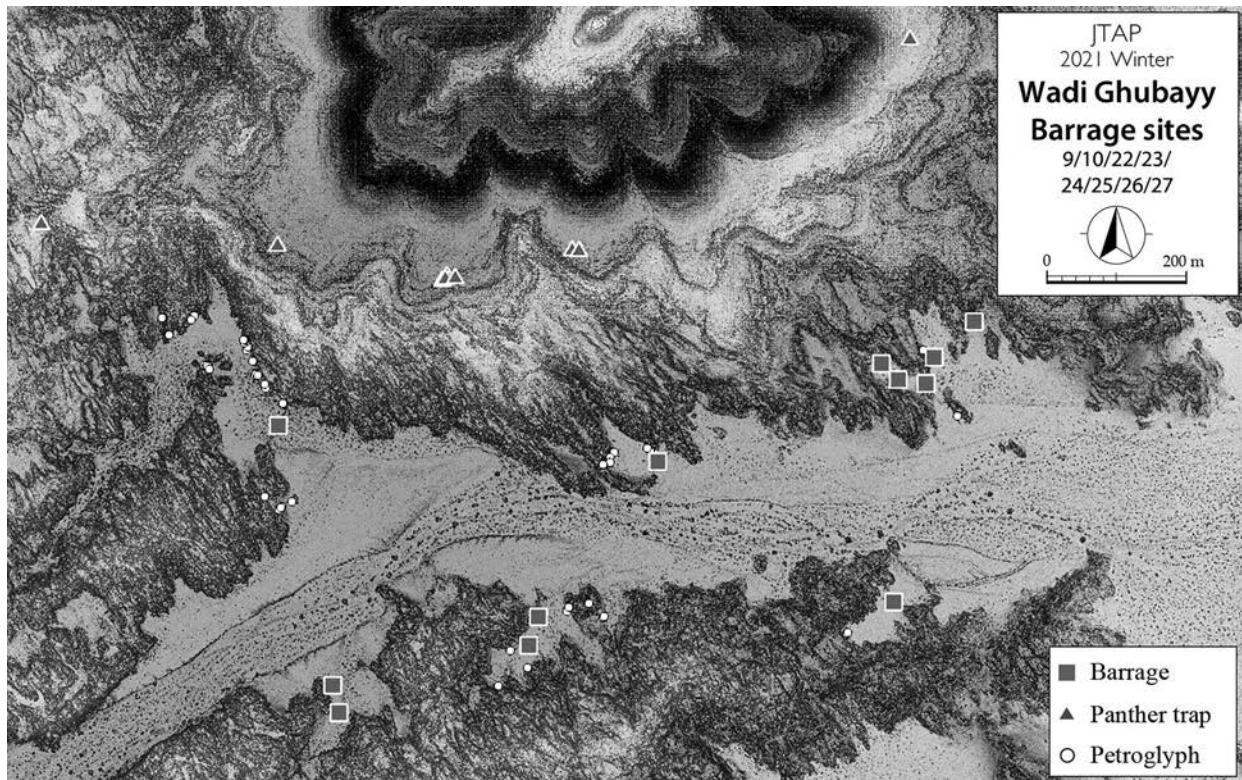


図2 ワディ・グバイ中流域のダム遺跡群：ダムとその周辺遺構の分布



図3 ワディ・グバイ中流域のダム遺跡群：全景(東から)



図5 ワディ・グバイ 26 号遺跡：1056 号ダム Area5 の捨石 (南西から)



図4 ワディ・グバイ 10 号遺跡：1039 号ダム全景(南東から)



図6 ワディ・グバイ 26 号遺跡：1057 号ダム Area 1 の石囲い井戸(南西から)



図7 ワディ・グバイ 9号遺跡：1039号パンサー・トラップ（蓋石除去後、北東から）



図9 ワディ・グバイ 9号遺跡：1038号ダム周囲(Loc. 22)の岩刻画



図8 ワディ・グバイ 9号遺跡：1038号ダム周囲(Loc. 19)の岩刻画

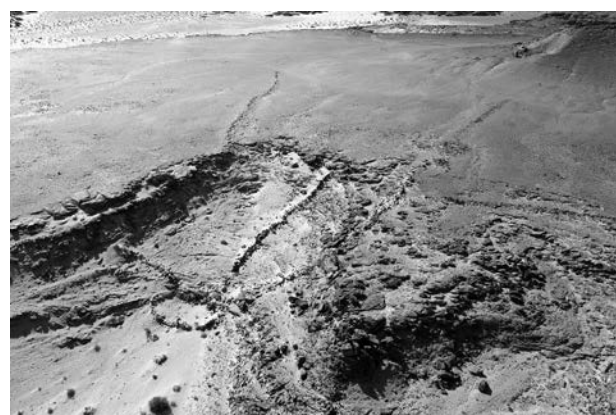


図10 ワディ・グバイ 28号遺跡：1号カイト全景(北東から)

である(図9)。このモチーフの岩刻画は、円塔墓やプラットフォーム、ダム、パンサー・トラップなどと同時期(前期青銅器時代)と推測される。

なお、ワディ・グバイの支流であるワディ・アブ・ブレイガ(Wadi Abu Buraiqa)の上流西岸に位置するWGB-20、-21の2遺跡では、人造のダムではなく、露出岩盤上の大きな凹凸(すなわち天然の水溜り)と、パンサー・トラップ、岩刻画の組み合わせが確認された。水場の形態こそ異なるものの、それを核とする複合体の形成という点では、先述の事例と同類である。

4. カイト・サイトとキャンプ・サイト

先史遊牧民の実生活を知る手がかりは、他にもあった。WGB-28、-32号遺跡の狩猟用カイト、WGB-31号遺跡の円形遺構群が、それである。前者(Kite site)は崖下の円形囲い場と、そこから崖上に向かって扇型に延びる一対の誘導壁で構成された大型の石造遺構で、ガゼルやアイベックスなどの群れを追い込んで一網打

尽にするための狩猟施設と考えられている(図10)。WGB-28号遺跡で2基、その北に位置するWGB-32号遺跡で1基が、それぞれ確認された。この種の狩猟施設は、ヨルダン東部のアズラク盆地や、イスラエル南部のネゲブ高地、シナイ半島などで多く知られており、前者では主に後期新石器時代、後二者では主に銅石器～前期青銅器時代に位置付けられている。サウジアラビアでもジョウフ州北部やヒジャーズ山地の玄武岩地帯で確認が相次いでいるが(Kennedy *et al.* 2015)、タブーク高原では初めての発見である。崖面の落差を利用した囲い場の設置は、ネゲブ・シナイの事例と類似している(Holzer *et al.* 2010)。

一方の円形遺構群は、WGB-28号遺跡の1号カイトを見通せる隣接独立丘の舌状台地北西端に位置しており、カイト狩猟民のキャンプ址であったと考えられる(図11)。大小10件ほどの円形～楕円形遺構が互いに連結して中核部を形成しているが、その周囲には数件の単独遺構も併存している。後者の中には、南レヴァントの銅石器～前期青銅器時代に特徴的な大型棟入住居(broadhouse)も含まれていた。隣接のカイト



図11 ワディ・グバイ 31号遺跡：円形遺構群(南東から)

と併せて、来季には発掘したい。

5. その他の遺跡

調査区北半での一連の作業と並行して、南半および北東端に集中する葬祭遺跡群の追加調査も行った。WGB-14N 遺跡の周辺では、新たに2件の葬祭遺跡(WGB-29、-30)を確認・登録した。一方、WGB-6W 遺跡では1032号ニッチ付きエンクロージャーと1033号大型ダムを、これに隣接するWGB-6N 遺跡では1027号矩形シスト墓を、それぞれ発掘した。

6. まとめ

2回の調査によって、ワディ・グバイ流域の銅石器～前期青銅器時代遊牧民は、その本流域を実生活の空間として、南側支流を葬祭空間として、それぞれ使い分けていたことが判明した。これまで粘り強く進めてきた広域総合調査の成果である。しかし、後者と異なり、前者については調査を始めたばかりであり、ダム、パンサー・トラップ、岩刻画以外の側面はまだ明らかになっていない。本年春に予定している第8次

調査でカイト・サイトとそれに隣接するキャンプ・サイトを発掘し、先史遊牧民の実像に迫りたい。

参考文献

- ・ Fujii, S. 2016 Wadi Ghubai and Wadi Mohorak Sites: Protohistoric burial fields in the Tabuk Province, northwestern Arabia. In M. Luciani (ed.), *The Archaeology of North Arabia: Oases and Landscapes*, 111-131. Vienna, Austrian Academy of Sciences.
- ・ Fujii, S. 2013 Chronology of the Jafr prehistory and protohistory: A key to the process of pastoral nomadization in the southern Levant. *Syria* 90: 49-125.
- ・ Fujii, S., A. A., al-Mansoor, T. Adachi, A. I. Al-Munif, K. Nagaya, S. M. Al-Tamimi, R. Tokunaga, A. Uesugi, and T. Odaka (in press a) Archaeological investigations at the Wadi al-Ghubayy Sites (NW Arabia): A preliminary report of the 2017-2019 excavation seasons. *Atlat: Journal of Saudi Arabian Archaeology* 27.
- ・ Fujii, S., A. A. al-Mansoor, T. Adachi, A. I. Al-munif, K. Nagaya, A. M. Al-Tamimi, A. Uesugi and T. Odaka (in press b) Archaeological investigations at the Wadi al-Muharrag Sites (NW Arabia): A preliminary report of the 2017 and 2018 excavation seasons. *Atlat: Journal of Saudi Arabian Archaeology* 27.
- ・ Holzer, A., U. Avner, N. Porat and K. L. Horwitz 2010 Desert kites in the Negev desert and northeast Sinai: Their function, chronology and ecology. *Journal of Arid Environments* 74/7: 806-817.
- ・ Hüneburg, L., P. Hoelzmann, D. Knitter, B. Teichert, C. Richter and others. 2019 Living at the wadi - integrating geomorphology and archaeology at the oasis of Qurayyah (NW Arabia). *Journal of Maps* 15/2: 215-226.
- ・ Kennedy, D., R. Banks and M. Dalton 2015 Kites in Saudi Arabia. *Arabian Archaeology and Epigraphy* 26: 177-195.
- ・ 藤井純夫・足立拓朗・上杉彰紀・小高敬寛 2020「アラビア半島の遊牧化—ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡群の第5次発掘調査(2019年)—」『第27回西アジア発掘調査報告会報告集』132-136頁 日本西アジア考古学会。
- ・ 藤井純夫・足立拓朗 2019「アラビア半島の遊牧化—ワディ・グバイ遺跡群の第3～4次発掘調査(2018年)—」『第26回西アジア発掘調査報告会報告集』66-70頁 日本西アジア考古学会。
- ・ 藤井純夫・足立拓朗・長屋慶憲 2018「アラビア半島の遊牧化—ワディ・ムハラック、ワディ・グバイ遺跡群の第1次、2次発掘調査(2017年)—」『第25回西アジア発掘調査報告会報告集』122-127頁 日本西アジア考古学会。